

美祢市特定健診における推定1日食塩摂取量検査の導入について

◎高木 文也¹⁾、矢島 千紗¹⁾、堤 真希¹⁾、福田 昭子¹⁾、兼重 良恵¹⁾
美祢市立美東病院¹⁾

「目的」食塩の過剰摂取は、高血圧等の循環器系疾患に影響を及ぼすことが多くの研究で明らかにされており、生活習慣病の発症予防を目的とした食塩摂取量の目標値が設定されている。摂取したナトリウムの約90%が尿中に排泄されるため、尿検体を用いた食塩摂取量を推定する方法が広く用いられており、簡便で負担の少ない随時尿を用いた推定1日食塩摂取量検査が健康診断の現場で活用されている。今年度より、美祢市特定健診において推定1日食塩摂取量の検査を開始し、院内で検査を導入したので報告する。

「方法」2026年5月8日から2026年6月13日に美祢市特定健診を受診した159人を対象とした。（男性：女性=65:94、男性：66.2±7.1歳、女性：66.9±6.4歳）測定には、シスメックス BioMajesty 株式会社 JCA-BM9130 を使用し、計算式には田中法を用いた。

「結果」推定1日食塩摂取量の全体平均は男性：9.67±2.21g、女性：9.34±2.14g となり、厚生労働省の統計結果(男性：11g、女性：9.3g)より男性は低いものの、女性は同水準となった。また、2020年度版の日本人の食事摂取基

準である、男性：7.5g未満、女性：6.5g未満における達成率は、男性20%、女性7.4%であった。推定1日食塩摂取量と血圧に相関は認められないものの、高値血圧及び高血圧群と正常高値血圧及び正常血圧群に有意な差が認められた（高値血圧及び高血圧群：9.82±2.40g、正常高値血圧及び正常血圧群：8.89±1.58g、 $P=0.003$ ）。

「考察」先行研究において、ナトリウム摂取量の多い集団では加齢に伴う血圧上昇程度が大きく、特に65歳以上で循環器系疾患リスクを増加させることが示されている。田中法による推定1日食塩摂取量の計算は、男女の筋量差によるCr量などを考慮せず、随時尿を用いる為、簡便であるが誤差が大きいとされている。しかしながら、地域の特定健診の検査内容へ容易に組み込めるなどメリットも大きくその後の健康指導のための目安になりえるものとする。今後も院内に限らず、市と密に協力し地域の健康増進の一助となるべく業務を行っていく。

連絡先 0839-62-0515(代表)

当院の肝疾患コーディネーターの活動

◎戸本 弥花¹⁾、檜林 秀記¹⁾、藤永 裕¹⁾、西村 祐美¹⁾、服部 智野¹⁾、高屋 宏美¹⁾、野村 由梨¹⁾、古賀 かよ¹⁾
萩市民病院¹⁾

【はじめに】肝疾患コーディネーターは、肝炎の疾患や治療、検査受診勧奨方法などの研修を実施し、地域で中心となってコーディネートできる人材で、肝炎患者の適時適切な治療を促進することを目的としている。

山口県では2012年に養成がはじまり、2016年に臨床検査技師も取得対象となった。2024年にはさらに対象職種が拡大し、肝炎患者やその家族などを対象に肝疾患サポーターが設置された。

当院でも様々な職種の肝疾患コーディネーター取得者があり、その取得状況や活動について報告する。

【取得状況】当初は看護師1名が取得し活動を開始した。2016年に臨床検査技師、薬剤師、管理栄養士各1名が取得。現在は、臨床検査技師2名、管理栄養士2名、看護師1名、MSW1名、薬剤師1名が取得している。

【活動状況】山口県では肝疾患コーディネーター連絡協議会が全国に先駆けて2015年より開催されており、当院もそのメンバーとなっている。当初から看護師のコーディネーターが委員として出席していたが、2016年より臨床検査技

師が委員を務めている。

啓発活動としては、肝臓専門医による院内研修会の開催や看護の日にパンフレット配布を行っていたが、近年はイベントもなくポスターの掲示をしているのみであった。今年は看護の日イベントを地域のお祭りに合わせて実施したため、パンフレットの配布を行った。

受診勧奨については2019年より、臨床検査技師によるHBs抗原、HCV抗体陽性者の洗い出しと消化器内科医への週1回の報告を開始した。さらに、毎年集計を行い、陽性者のその後についての追跡結果も含め消化器内科医へ報告している。

2025年からは、初回陽性者にカルテレポートを記載することで、担当医から消化器内科への紹介を促している。

【今後の展望】現在は主な活動が陽性者の拾い上げのみだが、今後は院内のコーディネーターの連携や研修会の開催、院内・地域での啓発活動、また、B型肝炎の再活性化の対策などにも取り組んでいきたい。

連絡先 0838-25-1200

約2年間の国際医療 NGO ボランティア活動を終えて

◎森 三郎¹⁾

元特定非営利活動法人ジャパンハート ジャパンハートこども医療センター¹⁾

【はじめに】国際医療 NGO で活動する臨床検査技師は医師、看護師と比べると少数である。2023 年 12 月より国際医療 NGO ジャパンハートがカンボジアで運営するジャパンハートこども医療センター（JHCMC、現ジャパンハート医療センター）にて長期ボランティア臨床検査技師として約2年間活動した。今回、病院業務に加え院内・院外で行ったカンボジアでのボランティア活動について報告する。

【活動内容】JHCMC は小児一般・小児がん治療、成人内科・外科、産科を有するベッド数約100の病院である。ルーチン業務は私とカンボジア人検査技師2名で行い、検査項目は血液検査（骨髄穿刺を含む）、輸血検査（血液型・クロスマッチ）、電解質検査、POCT による感染症検査であり業務拡大として細菌検査、心臓超音波検査を行った。ルーチン業務以外の院内活動としてまず同僚のカンボジア人検査技師に対して業務に関わる技術指導を行った。院内スタッフ向けレクチャーとしてクロスマッチ、グラム染色、心電図判読、全血球計測（CBC）データ判読を行い、院外スタッフ向けには団体が関連するミャンマーの病院に3度赴きミ

ャンマー人医師・看護師に対して院内スタッフ向けとほぼ同様のレクチャーを行った。また隣接する公立病院検査技師5名に対してクロスマッチレクチャーを行った。院内感染防止対策チーム（ICT）にも所属し、ミーティングにて院内感染防止対策に関する具体的な提案やグッズ導入、そして手洗いに関するサーベイランス及びその報告を院内スタッフ向けに行った。また院内スタッフへの自主学习資料として院内感染防止対策に関わる Q&A を作成し配信した。2025 年 10 月下旬プノンペン市内に開院した新病院検査室立ち上げに関して検査新機種選定、検査室レイアウト考案及び導入された電子カルテを用いての検査室スタートに協力した。

【まとめ】約2年間の長期ボランティア活動でカンボジア医療へ微力ながら貢献できたことは、自身の知識と経験が十分活かした活動であったように思われた。今後は海外医療活動を志す若手及びシニア技師に対して講演等を通して海外医療ボランティア活動という選択肢もあることを発信していきたい。連絡先 - 090-4148-9142